

ベストプラクティス企業への職場訪問

長野労働局（局長 小野寺喜一）は、「過重労働解消キャンペーン」の一環として、11月24日（水）、働き方改革を促進し長時間労働の削減に向けて積極的に取り組む企業（ベストプラクティス企業）への職場訪問を実施しました。

今回は、須坂市のオリオン機械株式会社を訪問し、代表取締役 太田 哲郎 社長から、長時間労働の削減等に向けた取組についてご説明いただきました。

企業名	オリオン機械 株式会社
所在地	須坂市大字幸高246
業種	一般機械器具製造業 （精密空調機器などの産業機械） （搾乳機械などの酪農機器）
社員数 （本社）	約 500 名



訪問日	令和3年11月24日
訪問者	長野労働局 局長 小野寺 喜一 労働基準部長 紀伊 洋一 監督課長 関川 秀泉 主任監察官 古畑 善美 中野労働基準監督署 署長 中野 博文
面接者	代表取締役 太田 哲郎 社長 取締役 中島 孝久 生産本部長 管理本部 仲俣 公夫 総務部長 管理本部 総務部 池田 幸司 人事教育グループ長 第二製造部 花井 淳一 副部長

（会談の様子）



（左から 古畑主任監察官 関川課長
紀伊部長 小野寺局長 中野署長）



（左から 仲俣部長 太田社長 中島本部長
池田グループ長 花井副部長）

(職場内巡視)



○ iPad を用い
生産管理を行
い、ペーパーレ
ス化やデータ管
理化による作業
効率の向上に努
めている。これ
により労働時間
短縮につながっ
ている。

○ KYK や日
めくりによる
安全標語など
により熱心に
安全衛生活動
に取り組んで
いる。



○ 毎月1回安全衛生委員会で安全パトロール（安全衛生委員会委員のほか、安全衛生コンサルタントの資格を持った産業医も同行）を行い、不安全な箇所等は、誰もが見ることができるフォルダーに写真等を掲載し、情報共有する。この不安全な箇所等は、翌月までに改善解決し、改善解決手法も同じく情報共有し、全員に周知徹底することで労働災害の発生の防止に努めている。

○ 2009年から日本のものづくりの技術向上を目指す「技能五輪」に挑戦している。
○ 2008年には「ものづくり塾」を設立し、優れた技を、熟練工から未来を託す若者技能者たちに引き継いでいる。
○ この塾から世界大会の日本代表も輩出している。



（社員食堂の様子）



○ コロナウイルス感染症対策のため、食堂の椅子を全て南向きにしている。また、黙食に心掛け感染リスクの低下に努めている。

小野寺局長と社長との意見交換

【太田社長ほか企業側からの説明】



・「iPad などの活用によるデジタル化や web 会議の推進による業務の効率化」「有給休暇取得推進日（飛び石連休の場合は間を休暇とするなど）や時間年休制度を設け年次有給休暇の取得促進」などによって労働時間の削減に取り組んでいる。

・「キッズサポート制度」※1「時差出勤制度」「男性の育児休暇制度」等によって、多様な働き方を促進している。

・社長自らがテレワークを行った経験から、サテライトオフィスの活用によるテレワークが今後のカギになると考える。

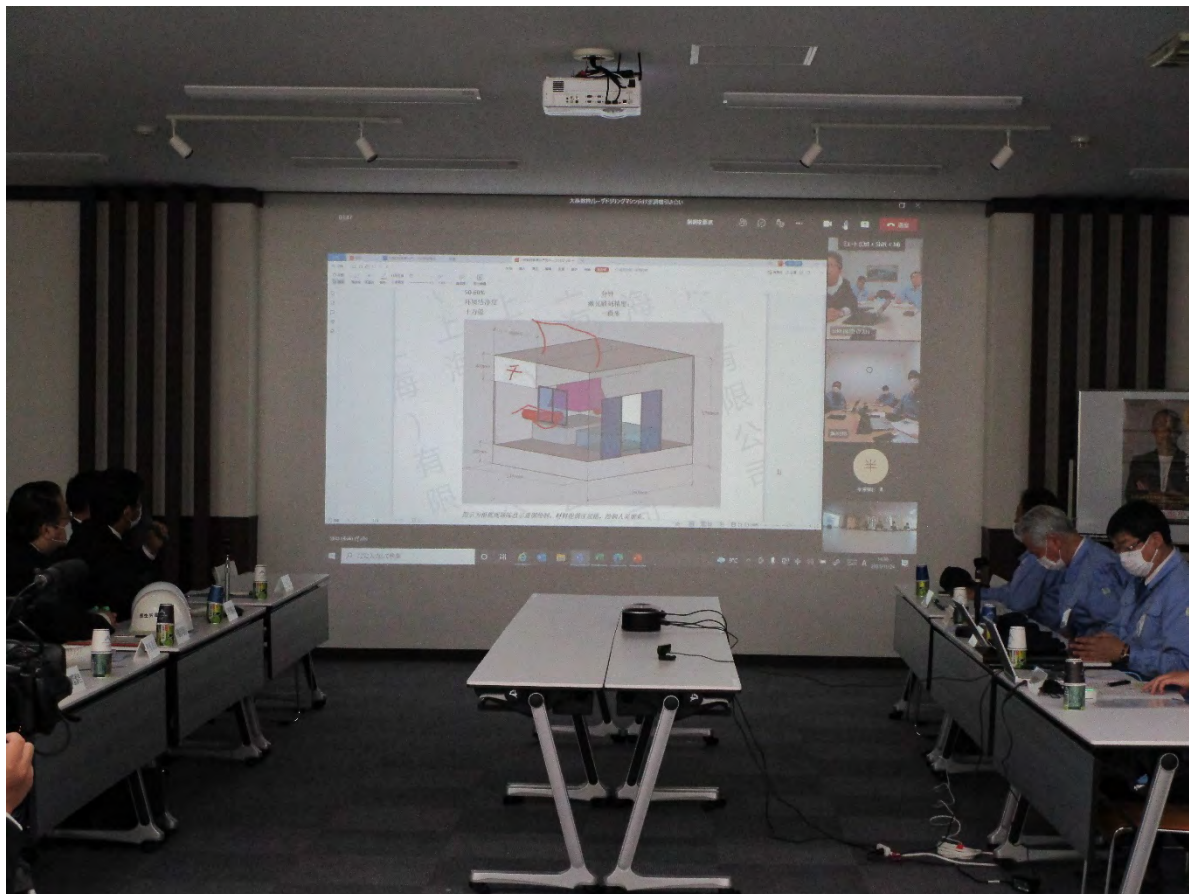
・メンタルヘルス対策の一つとして、常勤の保健師を活用するとともに、新入社員数人のグループに係長クラスを指導員として担当させ、様々な相談やメンタルヘルスケア※2に対応している。

・「働き方改革は働き甲斐改革」であり、「社員の幸福感を高める経営」が何よりも大切であると考えている。

※1 社員の子が小学校入学となる年に短時間勤務を推奨する社内制度

※2 年齢の近い先輩社員が新入社員をサポートするため、新入社員が疑問に思ったこと、悩んでいること、業務の成果などをノートに書き、先輩社員がノートに回答などを記入し返却する対応などを行っている。

【海外拠点（中国）との web 会議に小野寺局長が参加して労働者らと web 会議の効果について意見交換】



・労働者から「対内的な会議に関しては、web でも不都合は感じないが、一方で対外的（顧客）については、会話だけでなく様々な情報を感じ取る必要があるため、やはり対面による打ち合わせが欠かせないと感じている。」などの意見があった。



【小野寺局長からの講評】



- ・「安全で健康的に働ける職場」が何より大切であり、それは社長のいう「社員の幸福感を高める」ことにもつながり、その社員の家族など周辺の人々のためにもなる。
- ・デジタル化等による労働時間の削減対策や安全対策、メンタルケアへの取組、技能五輪の活用などによる若手の育成などへの取組は高く評価できる。
- ・コロナ禍で一定程度進んだテレワークについてもサテライトオフィスの活用等が効果的である。